

現状肯定は人々に幸せをもたらすのか

—広島県在住者を対象にしたシステム正当化の緩和機能の検討—

○森永康子

(広島大学)

格差のある社会はなぜ維持され続けるのか。その説明理論の一つにシステム正当化理論 (Jost & Banaji, 1994) がある。システム正当化理論は、人々が現状維持を望む、つまりその社会にある既存のシステム (社会・政治・経済の制度) を正当化する傾向を持つこと、そして、システム正当化によって心理的幸福感を得ることができる (システム正当化の緩和効果) と主張する。システム正当化の緩和効果は既に多くの研究で確認されてきたが、それらは主に海外で行われたものである。本研究では、広島県在住者を対象としたデータにより、システム正当化の緩和機能を検討する。

また、森永他 (2022) は、ジェンダー役割に関するシステムを用い、女性の中でジェンダー・システムを強く正当化している人たちはそうでない人たちよりも人生満足度が高いが、男性にはそうした傾向があまり見られないことを報告している。そのため、本研究では参加者の性別とシステム正当化の交互作用効果についても検討する。

方法

協力者 広島県在住の 20~79 歳の成人。リサーチ会社に委託して web 上で、2022 年 2 月に実施した。回答に不備のない 2522 名 (女性 1254 名) を分析に用いた。年齢は表 1 参照。

質問項目 (本報告で用いたもののみ) ①人生満足度 (3 項目:例「私は自分の人生に満足している」Diener et al., 1985; 4 件法; $\alpha = .914$) ②システム正当化 (4 項目:例「日本社会は、誰でも、富や地位をつかむチャンスが同じようにある」Kay & Jost, 2003; 4 件法; $\alpha = .805$)。③属性として、年齢、性別 (性自認)、婚姻状態、年収を尋ねた。

結果

男女ごとに各変数の平均値を算出した (表 1)。人生満足度とシステム正当化には大きなジェンダー差はみられなかった。システム正当化の緩和機能を検討するために、人生満足度を目的変数とし、性別、年齢、婚姻状態、システム正当化、性別×システム正当化の交互作用を説明変数とした重回帰分析を行った (表 2)。その結果、既婚者は独身者よりも、女性は男性よりも、また、個人

表1 各変数の平均値およびジェンダー差

	女性	男性	<i>t</i> (2520)	<i>p</i>	<i>d</i>
人生満足度	2.397 (0.830)	2.336 (0.777)	1.903	.057	0.076
システム正当化	2.468 (0.659)	2.503 (0.671)	1.324	.186	0.053
年齢	48.3 (13.5)	51.2 (15.3)	5.043	.000	0.201
個人年収	1.305 (0.644)	2.338 (1.225)	26.460	.000	1.053
既婚者割合(%)	63.5	64.7			

人生満足度とシステム正当化は4件法 (1=同意しない, 4=同意する)

表2 人生満足度を目的変数とした重回帰分析の結果

変数名	人生満足度	95%下限	95%上限
性別 (1=男性, 2=女性)	.096 ***	0.056	0.135
年齢	-.022	-0.058	0.015
婚姻 (1=独身, 2=既婚)	.203 ***	0.167	0.240
個人年収	.099 ***	0.059	0.138
システム正当化	.387 ***	0.352	0.422
性別×システム正当化	.010	-0.024	0.045

R^2 $F(6,2515) = 117.286$.219 ***

個人年収: 1=250未満, 2=250~449, 3=450~649, 4=650~849, 5=850以上。*** $p < .001$

年収が高い人ほど、さらに、正当化が強い人ほど、人生満足度が高かった。しかし、性別と正当化の交互作用は有意ではなかった。

考察

本研究は、広島県在住者を対象としたデータを用いて、システム正当化の緩和機能について検討した。その結果、システム正当化が強いほど人生満足度が高いことが示され、広島県在住者においても過去の研究と一致する結果が見られた。ジェンダー・システムについては、男性の方が女性より正当化が強いことや女性でシステム正当化の緩和機能が強いことが報告されている (森永他, 2022) が、本研究で用いた全体的なシステムについてはそうしたジェンダー差は見られなかった。これは、本研究が日本社会全体についての正当化を尋ねたためと考えられる。

主な引用文献

森永他 (2022). <https://doi.org/10.14966/jssp.2102>

付記: 本研究は、広島大学ダイバーシティ研究センターが行った「広島県ジェンダー・セクシュアリティのアンケート調査」の一部を分析したものである。本発表にあたって科研費 21K02978 の支援を受けた。